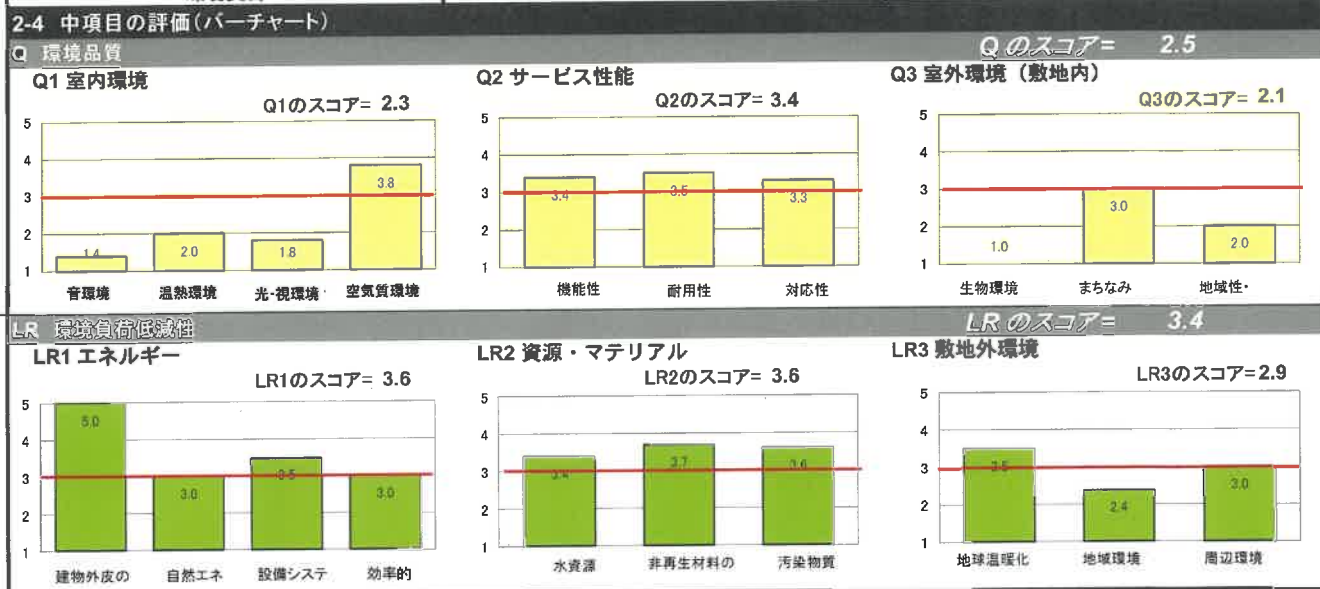
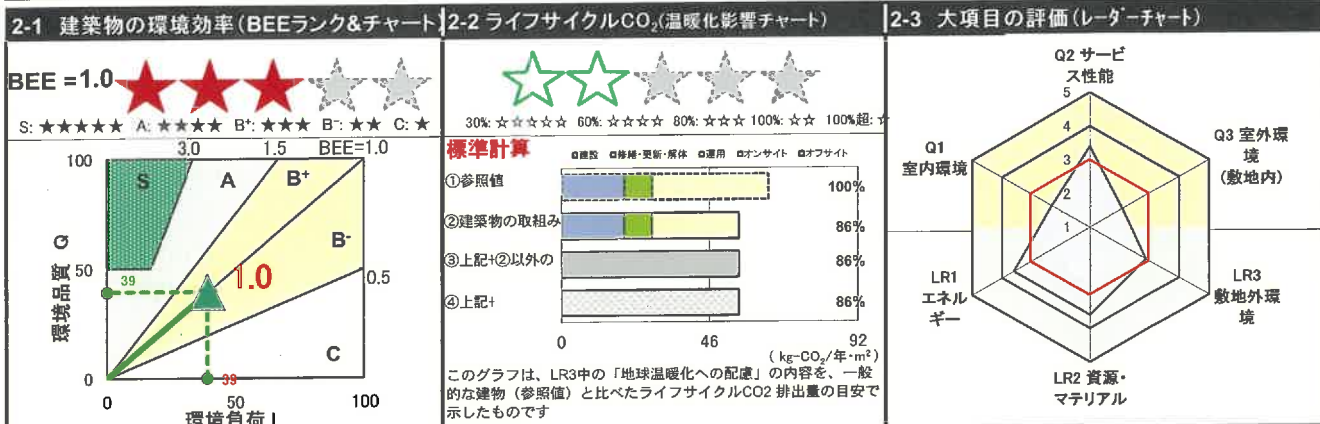


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)鳥取市北部学校給食センター	階数	地上2F
建設地	鳥取県鳥取市	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年8月25日
敷地面積	5,786 m ²	作成者	中島直行
建築面積	2,817 m ²	確認日	2025年8月25日
延床面積	3,825 m ²	確認者	中島直行



3 設計上の配慮事項			その他
総合 耐久性の高い材料の採用や、維持管理の容易な計画とし、建物の長寿命化を目指す。 省エネ型設備機器、高効率機器の導入を図り維持管理費の低減に努める。			特になし
Q1 室内環境 外壁断熱材等に断熱性の高い材料を採用した。 使用する材料は全てF☆☆☆☆を採用し、化学汚染物質発生を抑制する計画とした。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮し、内装仕上げを防汚性の高い建材や、壁や床面にホコリが溜まりにくいようR面取り巾木を採用した。	Q3 室外環境(敷地内) 防犯性の配慮し、敷地周囲は見通しの良いフェンスを採用した。	
LR1 エネルギー 断熱材を適正配置したり、複層ガラス(遮熱Low-E)を採用したりすることで、建物外皮の熱負荷抑制に配慮した計画とした。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓に自動水栓、便器は節水型便器を採用することで、水資源保護に努める計画とした。また、地業の再生砕石や、室内の仕上げにリサイクル材使用し環境負荷低減に貢献する計画とした。	LR3 敷地外環境 駐車場及び自転車置き場の適切な台数を確保する計画とした。 また、屋外広告物照明の設置をなくし、周辺への光害に配慮する計画とした。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される